

はにわ通信

No.189 平成22(2010)年12月号



本物には凄みがあります

【「もののふの造形」の展示会場にて～『ほんもの迫力』に魅せられて～】

「はにわ館」第2展示室では、10月24日から日本刀とそれに関係のある具足などの展示を行なっています(12月5日まで)。会場には、連日たくさんのお客様が見学に来ていただいています。日本刀といえば、時代劇の武士たちが切り合うシーンを思い浮かべる方が多いと思います。実際に昔の記録を詳しく調べてみると、死因の多くは弓矢・槍・鉄砲によって受けた傷が原因で、刀による死者は意外と少ないそうです。このことは、日本刀が『武士の魂』といわれるように、武士の精神的な象徴であって、実際に身に着けていても、戦闘で使われることが少なかったことを表すのかもしれませんが。

古くから神社・仏閣にご神体・ご神宝として奉納される例があるように、刀剣類には武器としての性格以外に、姿や形に精神性や美意識の高さといった象徴的な意味が与えられ、信仰・儀礼・鑑賞の対象としても扱われてきました。会場では、ひとつひとつの刀剣類を、じっくりと時間をかけてご覧頂いているお客様の姿が多くみられます。展示資料をみるお客様の眼は真剣そのもの。単なる武器としてではなく、美術品・伝統工芸品として鑑賞してみることがわかります。たまたま「はにわ館」を見学に来てくれた小中学生も、『本物のもつ迫力』に魅せられて、真剣な表情で観察してくれています。

文化財センターでは、今後もこのような『本物のもつ迫力』を市民の皆様にお伝えできる展示会を企画・開催していきます。みなさまのご意見・ご要望等あればお知らせください。(担当)



校外学習で「はにわ館」を訪れ、興味深げに展示を見学する中学生のみなさん

【師走の月に】

新しき 年の光に ^うむかふかな ^わしはすの月の ^{さんじょうにし さねたか}あり明の空
三條西 実隆

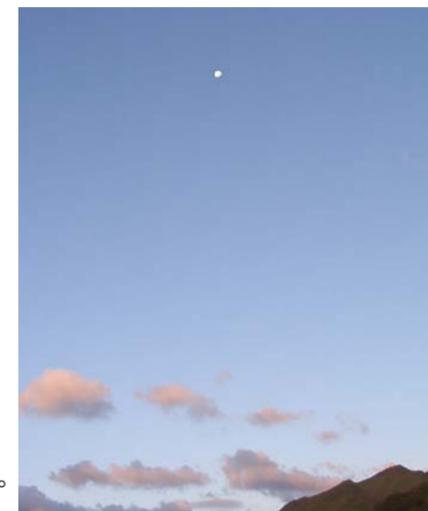
夜明け方なお残る師走の月は、訪れる新しい年の光とむき合うことであるよ。

見る人もいない寒々とした師走の月は、冬のさびしさをいっそう感じさせるといった古人(兼好法師)もいますが、それとは別に暦のうえで冬から春にむかうこの時節の有明の月は、「春漸近」(春がだんだん近づく)の題ともあわせ、あらたな春のおとずれをつげる使いであります。

本年もあますところわずかになりました。文化財センターは今年、3万3千(11月現在)人をこえる入館者の方々においいただきました。これもみなさまのおかげと、職員一同心より感謝しております。来年も引き続きよろしく願いいたします。

みなさまにとって来るべき年が、あらたな希望に満ちた年であることをお祈り申し上げます。

* 三條西実隆 室町後期の公家、歌人 (所長)



【文化財センター はにわ館・ギャラリー 12月の催し物予定】

【はにわ館】入館料100円(18歳以下無料。)月曜日、祝日の翌日は休館です。

- 第1展示室 ・常設展「宝塚古墳の謎」
- 第2展示室 ・後期特別展「郷土刀と松阪～もののふの造形」～12/5(日)
次回「まつさかの歴史文化風土を考える」1月22日(土)～

【ギャラリー】入場無料

- 第1ギャラリー ・『ふるさとスケッチ風の会』展 12/2(木)～5(日)9時～17時 *5日は16時まで
 - ・第51回松阪市美術展覧会優秀作品展 12/23(祝・木)～1/10(祝・月)
 - 第3ギャラリー ・敬真福祉会 風の丘『はっぴいすまいる～風の丘の仲間たち～』12/23(祝・木)～5(日)
*5日は16時まで
 - 第1・2・3ギャラリー・まつさかチャレンジドブレイス希望の園
『異才きらめき!展 in 松阪障がいのあるアーティストの世界』12/11(土)～19(日)
10:00～17:00 *19日は15時まで
- 開館時間:9時から17時(入館は16時30分まで)



バーコード読み取り
(文化財センター情報)

【発行】松阪市文化財センター 【電話】0598-26-7330 【サイト】<http://www.city.matsusaka.mie.jp/>